

2023年度

科目名称	乗馬療法技術概論
授業コード	AD348
英語名称	
学期	2023年度前期
単位	2.0
担当教員	石井 孝弘 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>動物介在療法を実施する際に感覚統合について理解しておくことは重要である。動物介在療法はその対象者の日常生活における困難さを解決する目的で行われる治療、療法である。</p> <p>対象者の抱えている問題点に対して、動物介在療法は主に動物とともに行う活動により得ることが可能な感覚刺激を脳が受容することが効果柄とつながる。この科目では動物とともに行う活動により得ることの感覚刺激がどのようなものがあり、その感覚刺激が脳に与える影響について理解を深める。</p> <p>主な対象となる動物は哺乳動物となる。その中でも人が乗ることが馬を中心に学ぶ。</p> <p>この授業を受講することで、動物介在療法において、人の脳に与える感覚刺激を考慮したプログラムの立案が可能となる。</p> <p>1.動物介在療法において感覚統合の知識を役立てる。 2.動物介在療法で用いられる感覚統合理論の概要を学ぶ。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>「実務経験のある教員による実践的科目」</p> <p>1、地域における障害児・者支援として、乗馬療法を行っている作業療法士による講義を行う。</p> <p>2、馬のケア、心理学、調教、馴致などを海外学び日本の乗馬施設、ホースセラピー施設において実践を行っている講師による実践的科目</p>
到達目標	<p>カリキュラムポリシーに掲げる「人体の構造と機能及び心身の発達、疾病・障害の成り立ちと回復過程および保健医療福祉とリハビリテーションの理解などから作業療法の基礎知識を学ぶ、保健医療福祉などの臨床を体験し、知識・技能、専門職としての認識を高める」が実現するよう、動物介在療法において治療的要素である「感覚統合」の基本的な知識を身につける。</p> <p>1. 対象者に影響を及ぼす感覚刺激について理解し説明することができる。</p> <p>2. 動物介在療法で用いられる動物との活動において受容可能な感覚刺激の概要を理解し、説明することができる。</p> <p>3. 動物介在療法において感覚刺激を治療的要素として意識したプログラムの立案を行うことができる。</p> <p>研究者倫理に関する規範意識として、研究者の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で研究に取り組むことができる。</p>
計画・内容	<p>予習：乗馬療法について</p> <p>1 乗馬療法技術概論 オリエンテーション</p> <p>復習・予習：乗馬療法技術概論 乗馬療法の対象</p> <p>2 乗馬療法の対象</p> <p>復習・予習：乗馬療法の対象 乗馬療法に使用される馬</p> <p>3 乗馬療法に使用される馬</p> <p>復習・予習：乗馬療法に使用される馬 馬の運動科学</p> <p>4 馬の運動科学</p> <p>復習・予習：馬の運動科学 乗馬療法における危機管理</p>

2023年度

計画・内容	<p>9 馬の馴致・調教概論 復習・予習：馬の馴致・調教概論 馬の馴致・調教演習1、基本的な馬とのかかわり</p> <p>10 馬の馴致・調教演習1、基本的な馬とのかかわり 復習・予習：馬の馴致・調教演習1、基本的な馬とのかかわり スタッフとしての役割</p> <p>11 馬の馴致・調教演習2、スタッフとしての役割 復習・予習：馬の馴致・調教演習2、スタッフとしての役割 乗馬療法の実際</p> <p>12 乗馬療法の実際 復習・予習：乗馬療法の実際 乗馬療法演習1、肢体不自由</p> <p>13 乗馬療法演習1、肢体不自由 復習・予習：乗馬療法演習1、肢体不自由 発達障害</p> <p>14 乗馬療法演習2、発達障害 復習・予習：乗馬療法演習2、発達障害</p> <p>15 乗馬療法概論まとめ 復習：授業全体を復習する</p>
授業の進め方	<p>1各テーマごとの講義、動画等を用いる 2乗馬療法について演習を行う</p>
能動的な学びの実施	<p>問題解決学習：乗馬療法について演習を通して実践的な学習を行う。 講義はその実践的演習に必要な基礎知識となるので授業中の学習については必ず復習を行い身に付けていくことが重要である。 演習に関しては、積極的な取り組みとしての体験が重要である</p>
授業時間外の学修	<p>授業前の予習は、動物介在療法に関する内容について、インターネット等で配信されている動画などの該当箇所を視聴しておく。 授業後の復習は、授業内容の講義ノートを整理し作製する（合計60時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>特に指定しない</p>
成績評価方法と基準	<p>授業中に実施する課題に対する解答により評価を行う（100％）</p>
課題等に対するフィードバック	<p>授業中の質問については即時回答する。</p>
オフィスアワー	<p>「CampusSquareを参照」</p>
留意事項	<p>選択科目 動物介在療法のための感覚統合を受講することが望まれる 授業中の質疑応答には積極的姿勢で臨むことを期待する。 特に教員が話した内容の要点をノートに取ることなどが重要である。</p> <p>動物介在療法、アニマルセラピー、ホースセラピー、Animal-assisted therapy、Animal-assisted-activity を実践するために必要な基本的知識である。 将来この分野にかかわろうとする学生は受講することが望ましい。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>1. 各テーマごとの非対面型の講義はオンタイムもしくはオンデマンドにて動画配信する。 2.最終回に課題を提示してレポートとして提出する80%、 授業時間中に提示する課題20%</p>